

2008年3月期(第37期) 中間決算説明会

2007年11月13日

エヌアイシ・オートテック株式会社

代表取締役社長 西川浩司



証券コード:5742

目次



I. 2008年3月期 中間決算の概要	P 3 ~ P17
II. 2008年3月期 通期業績予想	P18 ~ P25
III. 今後の施策	P26 ~ P31
IV. 会社概況	P32 ~ P41

I. 2008年3月期 中間決算の概要

中間期業績推移(要約財務諸表)

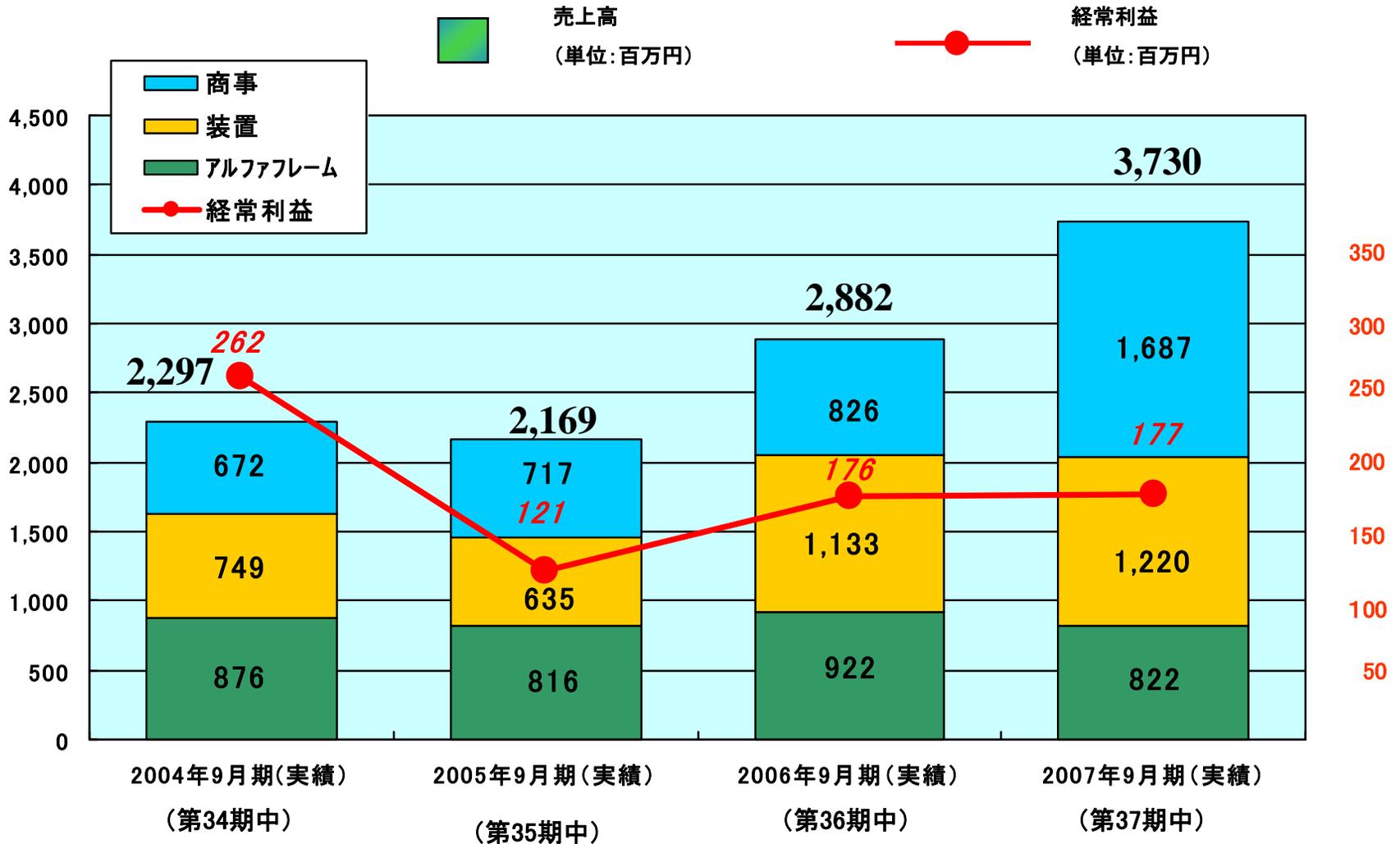


(単位:百万円) <ご参考>

	第35期中 2005年9月期	第36期中 2006年9月期	第37期中 2007年9月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期	第37期 2008年3月期
売上高	2,169	2,882	3,730	4,730	7,001	10,000
売上総利益	587	656	622	1,276	1,359	1,345
営業利益	120	184	172	358	425	410
経常利益	121	176	177	370	424	420
経常利益率	5.6%	6.1%	4.8%	7.8%	6.0%	4.2%
純利益(当期・中間)	78	99	101	221	240	240
純資産額	2,096	2,577	2,716	2,285	2,722	—
総資産	3,843	4,909	4,414	3,977	4,708	—
株主資本比率	54.5%	52.5%	61.5%	57.4%	57.8%	—
ROE	3.7%	4.1%	3.7%	10.2%	9.6%	—
ROA	3.1%	4.2%	3.8%	8.7%	9.8%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

中間売上高及び経常利益の推移



中間決算概要(P/L) 計画対比

(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2007年9月期)		当 中 間 計 画 (2007年9月期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2006年9月期)		前 年 比
売 上 高	3,730	100%	4,007	100%	93%	2,882	100%	129%
売上総利益	622	17%	753	19%	83%	656	23%	95%
営業利益	172	5%	227	6%	76%	184	6%	94%
経常利益	177	5%	229	6%	77%	176	6%	101%
中間(当期)純利益	101	3%	130	3%	78%	99	3%	102%

- 売上高 …………… アルミ構造部材の販売価格競争激化等による減収を見込むものの、引続き好調な自動車部品製造関連企業及びデジタル家電関連企業からの継続的受注による増収
- 売上総利益 …………… 原材料価格高騰や大型設備案件受注増加等に伴う売上原価増加により利益率が減少
- 営業利益 …………… 技術開発センター開設による経費及び研究開発費用の増加、内部統制関連費用に増加等による減益
- 経常利益 …………… 前期上場費用9百万円減少及び仕入値引等による増益
- 中間(当期)純利益 …… 増益等による法人税等の増加によるも増益

品目別中間売上高(アルファフレーム部門)

(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 7 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 7 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 6 年 9 月 期)		前 年 比
アルファフレーム	382	47%	473	47%	81%	452	49%	85%
補 助 部 品	364	44%	436	43%	84%	370	40%	98%
そ の 他	74	9%	101	10%	74%	99	11%	75%

- アルファフレーム …… アルファフレームは、当社の特徴である技術力を活かしたアルミ構造材の普及並びに提案営業を強化するも、販売価格競争激化等により計画を下回る
- 補助部品 …… フレームを結合するブラケット等の補助部品の売上は、販売価格競争激化等により計画を下回る
- その他 …… その他は、「顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加」及び「納期短縮化に伴う加工及び組立の増加」傾向に伴う売上が中心で、販売価格競争激化等により計画を下回る

販売先別中間売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 7 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 7 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 6 年 9 月 期)		前 年 比
代 理 店 販 売	735	90%	899	89%	82%	808	88%	91%
直 接 販 売	86	10%	111	11%	77%	113	12%	76%

- 代理店販売 …… 代理店営業マンの商品知識とモチベーション向上のため、定期的な勉強会の開催や分かりやすいカタログの作成を通じて販売を強化するも、販売価格競争激化等により計画を下回る
- 直接販売 …… 個別に強度解析等の支援を必要とする大口ユーザーに対して直接サポートが可能な直接販売体制の整備を行うも、販売価格競争激化等により計画を下回る

品目別中間売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2007年9月期)		当 中 間 計 画 (2007年9月期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2006年9月期)		前 年 比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
洗 浄 装 置	59	5%	33	3%	179%	63	6%	95%
検 査 装 置	6	1%	127	10%	5%	46	4%	15%
搬 送 ・ 梱 包 装 置	585	48%	431	33%	136%	459	41%	127%
ク リ ー ン ブ ー ス	325	27%	390	30%	83%	261	23%	125%
ア ル ミ 構 造 物	28	2%	64	5%	44%	97	9%	29%
そ の 他	214	18%	242	19%	89%	205	18%	105%

- 洗浄装置 …… 自動車関連業界向けの汎用性の高い中型機を中心に大型機も堅調に推移
- 検査装置 …… 自動車関連業界向け受注の期ズレにより計画下回るも下期受注
- 搬送・梱包装置 …… 光ディスク製造装置等の大口受注により伸長
- クリーンブース …… FPD製造設備装置向けカスタムクリーンブースは期ズレにより計画下回るも下期受注
- アルミ構造物 …… カスタム仕様マシンカバーは、原材料価格高騰や販売価格競争激化等により計画を下回る
- その他 …… 光ディスク製造装置用部品納入等の増加により前期比増なるも計画下回る

販売先別中間売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2007年9月期)		当 中 間 計 画 (2007年9月期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2006年9月期)		前 年 比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
自動車部品	68	6%	151	12%	45%	155	14%	44%
家電関係	663	54%	447	35%	148%	470	42%	141%
弱电関係	3	0%	13	1%	29%	19	2%	20%
機械関係	464	38%	642	50%	72%	428	38%	108%
食品関係	8	1%	8	1%	98%	0	0%	906%
薬品関係	6	1%	13	1%	49%	4	0%	141%
その他	4	0%	13	1%	35%	53	5%	9%

- 自動車部品 …… 自動車関連業界向け受注の期ズレにより計画下回るも下期受注
- 家電関係 …… 光ディスク製造装置等の大口受注により伸長
- 機械関係 …… FPD製造設備装置向けカスタムクリーンブースは期ズレにより計画下回るも下期受注
- 食品関係 …… 搬送装置の受注が予定通り推移してほぼ計画通り

品目別中間売上高(商事部門)



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2007年9月期)		当 中 間 計 画 (2007年9月期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2006年9月期)		前 年 比
	金額	計画比	金額	計画比		金額	計画比	
工業用砥石・油脂類	144	9%	130	8%	111%	134	16%	108%
機 械 設 備	1,185	70%	1,207	71%	98%	331	40%	358%
工 具 ・ ツ ー ル	265	16%	304	18%	87%	306	37%	87%
そ の 他	91	5%	64	4%	142%	54	7%	167%

- 工業用砥石・油脂類 …… 顧客の生産量拡大に伴い、機械設備に付随する消耗品等が堅調に推移
- 機械設備 …………… 大型機械設備案件や部品組立機等の機械設備投資が好調に推移するも、下期へのズレ込みにより計画未達
- 工具・ツール …………… 切削加工等の機械設備受注に伴うドリル等の切削工具減少により計画下回る
- その他 …………… 機械設備修理に伴う売上等が好調に推移

販売先別中間売上高(商事部門)

(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2 0 0 7 年 9 月 期)		当 中 間 計 画 (2 0 0 7 年 9 月 期)		計 画 比	前 年 実 績 (参 考) (2 0 0 6 年 9 月 期)		前 年 比
地元大手企業	1,419	84%	1,423	83%	100%	276	34%	513%
そ の 他	267	16%	283	17%	95%	549	66%	49%

- 地元大手企業 …… 大型機械設備案件や部品組立機等の機械設備投資が好調に推移するも、下期へのズレ込みにより計画未達
- その他 …………… 提案営業による既存顧客への囲い込み等により、工業用砥石・油脂類は堅調に推移するも工具類及び消耗材は計画未達より計画下回る

中間決算概要(P/L) 前年比



(単位:百万円)

	当 中 間 実 績 (2007年9月期)		前 年 実 績 (2006年9月期)		増 減	前年比	要 因
売 上 高	3,730	100%	2,882	100%	847	129%	・アルミ構造部材の販売価格競争激化等による減収を見込むものの、引続き好調な自動車部品製造関連企業及びデジタル家電関連企業からの継続的受注による増収
売上総利益	622	17%	656	23%	▲34	95%	・原材料価格高騰や大型設備案件受注増加等に伴う売上原価増加により利益率が減少
営業利益	172	5%	184	6%	▲11	94%	・給与賞与140 ・役員報酬55 ・運賃40
経常利益	177	5%	176	6%	1	101%	・営業外収益…仕入値引3 ・営業外費用…手形売却損1
中間純利益	101	3%	99	3%	1	102%	・増益等による法人税等の増加

	当 中 間 実 績 (2007年9月期)	前 年 実 績 (2006年9月期)	増 減	前年比	要 因
研究開発費	34	30	3	112%	・装置製品(洗浄機・搬送装置)開発を中心に投資

中間決算概要(B/S)



(単位:百万円)

	当中間期末 (2007年9月末)	前期末 (2007年3月末)	増	減	増	減	内	容
総資産	4,414	4,706		▲292				・建物(技術開発センター)の増加+113 ・現金及び預金の増加+149 ・受取手形及び売掛金の減少▲400
(棚卸資産)	679	794		▲114				・装置部門(FA装置・クリーンブース)の仕掛品等の減少
負債	1,697	1,984		▲286				・設備支払手形の増加+51 ・支払手形及び買掛金の減少▲277
(有利子負債)	40	60		▲20				・社債の減少(当中間期の社債残高40)
純資産	2,716	2,721		▲5				・利益剰余金の増加+54 ・自己株式取得による減少▲34

	当中間実績 (2007年9月期)	前年実績 (2006年9月期)	増	減	増	減	内	容
設備投資額	105	7		97				・技術開発センター(建物)の取得
減価償却費	33	31		2				・既存設備の償却額29 ・当期取得分償却額4

中間決算概要(キャッシュ・フロー)



(単位:百万円)

	当中間実績 (2007年9月期)	前年実績 (2006年9月期)	増 減	要 因
営業活動	370	119	250	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の減少による資金増加+983 ・たな卸資産の減少による資金増加+211 ・設備支払手形の増加による資金増加+51 ・仕入債務の減少による資金減少▲951 ・税引前中間純利益の減少による資金減少▲4
投資活動	▲120	▲322	201	<ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券の取得による資金減少+299 ・有形固定資産(技術開発センター等)の取得による資金減少▲93
財務活動	▲100	206	▲307	<ul style="list-style-type: none"> ・株式の発行による資金増加▲251 ・自己株式取得による資金減少▲34
現預金残高	445	171	273	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の各要因による資金増加+273

中間決算概要(受注実績)

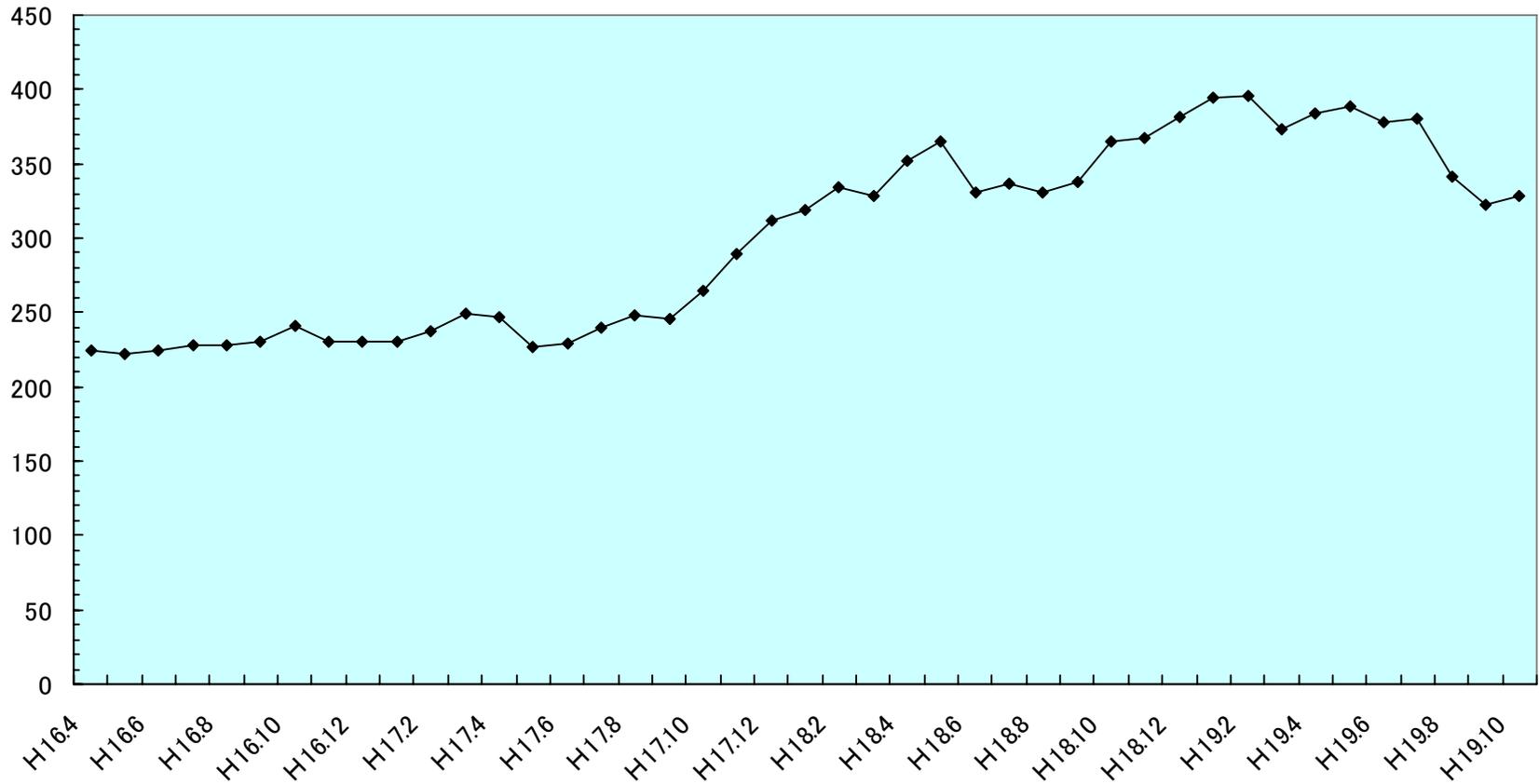
(単位:百万円)

	当 中 間 期 末 (2 0 0 7 年 9 月 末)		前 期 末 (2 0 0 7 年 3 月 末)		前 期 比	
	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高
アルファフレーム部門	792	41	904	48	88%	86%
装 置 部 門	568	480	1,449	663	39%	72%
商 事 部 門	4,736	4,228	2,261	1,489	209%	284%
合 計	6,098	4,750	4,614	2,201	132%	216%

- アルファフレーム部門 … 前期好調なデジタル家電関連業界からの受注が一服
- 装置部門 …… 前期好調な光ディスク製造装置の設備需要が一服
- 商事部門 …… 自動車部品製造関連企業からの大型機械設備受注により大幅伸長

中間決算概要(アルミ地金価格推移)

(単位:円/Kg)



※ 日経市況データより

Ⅱ. 2008年3月期 通期業績予想

業績推移(要約財務諸表)

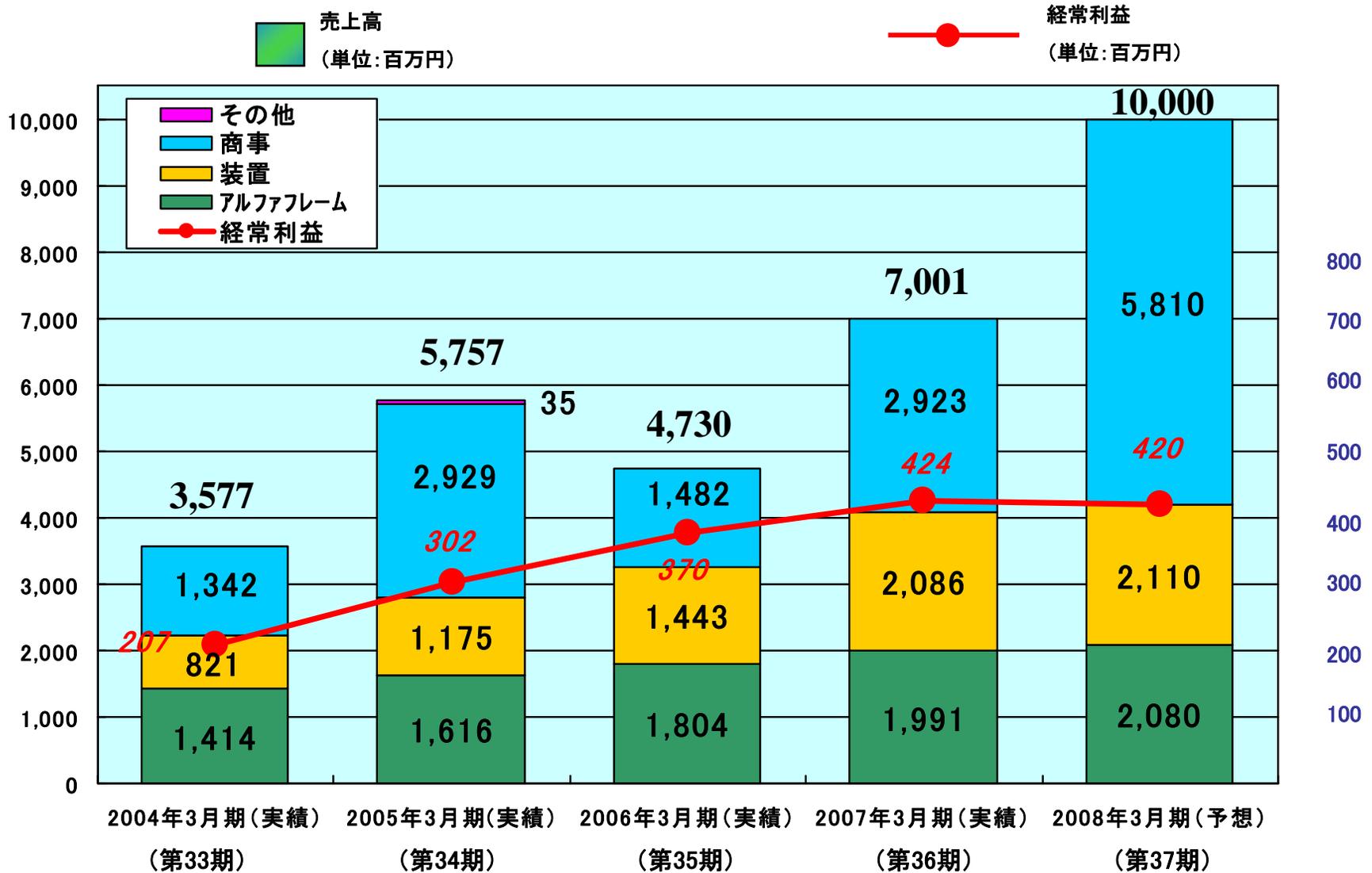


(単位:百万円) <ご参考>

	第32期 2003年3月期	第33期 2004年3月期	第34期 2005年3月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期	第37期 2008年3月期
売上高	3,239	3,577	5,757	4,730	7,001	10,000
売上総利益	—	1,029	1,250	1,276	1,364	1,345
営業利益	—	226	302	358	426	410
経常利益	25	207	302	370	424	420
経常利益率	0.8%	5.8%	5.3%	7.8%	6.0%	4.2%
当期純利益	48	129	157	221	239	240
株主資本	1,766	1,912	2,048	2,285	2,721	—
総資産	3,366	3,694	4,294	3,977	4,706	—
株主資本比率	52.5%	51.7%	47.7%	57.4%	57.8%	—
ROE	2.8%	7.0%	7.9%	10.2%	9.6%	—
ROA	—	6.4	7.6%	8.7%	9.8%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

利益計画(売上高及び経常利益の推移)



第37期 部門別売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
アルファフレーム	936	45%	920	46%	15	102%	・当社技術力を生かした提案営業の強化 ・各種技術面におけるサポートの強化
補助部品	926	45%	862	43%	63	107%	・上記アルファフレームに同じ
その他	218	10%	207	10%	10	105%	・顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加 ・納期短縮化に伴う加工及び組立の増加

販売先別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
代理店販売	1,809	87%	1,746	88%	63	104%	・当社技術力を生かした提案営業の強化 ・各種技術面におけるサポートの強化
直接販売	270	13%	245	12%	24	110%	・強度解析等による大口ユーザーへの直接ポート (設計支援等)を強化 ・当社ホームページ問合せ及び展示会来訪者に対する組織的フォローの強化

第37期 品目別売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2008年3月期予想)		前 期 (参 考) (2007年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
洗 浄 装 置	156	7%	95	5%	61	164%	・中型洗浄機及び標準洗浄機の需要は堅調
検 査 装 置	50	2%	98	5%	▲48	51%	・中型及び大型検査機の一部が翌期ズレの為
搬送・梱包装置	747	36%	638	31%	109	117%	・光ディスク製造装置等の受注は引き続き堅調
クリーンブース	717	35%	574	28%	143	125%	・カスタムクリーンブース市場は引き続き拡大傾向 ・FPD製造設備用の受注は堅調
アルミ構造物	113	5%	191	9%	▲78	59%	・既存客からの継続受注は堅調 ・ユーザー設計の増加に伴い減収を予想
そ の 他	324	15%	488	23%	▲164	66%	・クリーン関連部品(FFU、パネル等)及びアルファフレーム等の専用型材等の減少を予想し減収を見込

第37期 販売先別売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2008年3月期予想)		前 期 (参 考) (2007年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
自動車部品	312	14%	272	13%	39	115%	・中型及び大型洗浄機は堅調 ・新規顧客への生産体制&販売の強化
家電関係	738	34%	703	34%	34	105%	・光ディスク製造装置等の受注は引き続き堅調
弱電関係	18	0%	27	1%	▲9	66%	・製造装置用カスタムクリーンブースの受注は堅調だが、部材購入が計画下回る
機械関係	990	47%	1,001	48%	▲11	99%	・液晶製造装置設備投資が堅調で前期並み ・中型及び大型検査機の一部が翌期ズレの為
食品関係	16	0%	1	0%	15	1510%	・既存設備に伴う消耗部品や搬送装置が堅調
薬品関係	31	1%	8	0%	23	389%	・搬送装置やアルミ構造物等の部材購入が堅調
その他	4	0%	71	3%	▲67	6%	・搬送装置設備の見込み相違

第37期 部門別売上高(商事部門)



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
工業用砥石・ 油脂類	274	5%	275	9%	▲1	100%	・前期同様に機械設備投資が好調に推移 ・機械設備の変更に伴う大型砥石の需要が減少
機械設備	4,870	84%	1,905	65%	2,965	256%	・地元大手企業の設備案件により堅調に推移 ・部品組立機等の堅調に推移
工具・ツール	529	9%	622	21%	▲92	85%	・切削加工等の機械設備受注に伴うドリル 等の切削工具減少による減収 ・既存客へのフォロー営業強化
その他	137	2%	120	4%	17	115%	・前期同様に機械設備修理等が堅調に推移

販売先別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
地元大手企業	5,269	91%	2,025	69%	3,244	260%	・前年同様に大型設備案件等が堅調 ・設備投資増に伴い消耗品等も前年並み
その他	541	9%	898	31%	▲356	60%	・切削加工等の機械設備受注に伴うドリル 等の切削工具減少による減収 ・既存客へのフォロー営業強化

第37期 通期業績の概要(P/L) 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2008年3月期予想)		前 期 (参 考) (2007年3月期実績)		増 減	前年比	要 因
売 上 高	10,000	100%	7,001	100%	2,999	143%	・依然好調な次世代FPDや自動車部品の製造関連企業からの継続的な大型機械設備の受注による増加
売上総利益	1,345	13%	1,364	19%	▲19	99%	・原材料価格高騰を歩留り率向上や部品の海外調達等により粗利益率の低下を抑制 ・大型機械設備(商事部門)による利益率低下するも、売上高の伸長により増益
営業利益	410	4%	426	6%	▲16	96%	・技術開発センター設立による諸経費(減価償却費、不動産取得税等)及び研究開発費用の増加 ・内部統制構築に係る費用等の増加
経常利益	420	4%	424	6%	▲4	99%	・上記要因による費用の増加に伴い減益
当期純利益	240	2%	239	3%	1	100%	・同上
設備投資	176	—	31	—	144	551%	・技術開発センター設立、既存設備の更新&改修等に伴う大幅な増加
減価償却費	75	—	63	—	11	118%	・上記設備投資増に伴う増加
研究開発費	85	—	55	—	29	153%	・技術開発センター設立に伴う、各種研究開発の充実、FA装置に係る新技術の開発やアルファフレーム、クリーンブースの新製品開発等による増加

Ⅲ. 今後の施策

当社ビジネスの優位性



■ シナジーを活かした総合力

■ アルファフレーム部門

ALFA FRAME® SYSTEM の
シリーズ化

- ・高剛性フレーム
- ・アルファコンベア
- ・アルファレール

■ 装置部門

自動・省力化装置、周辺
機器の研究開発

- ・国内初の半導体工場向け
ミニエンバイロメント設備受注
- ・標準クリーンブース開発

■ 商事部門

輸入・国産工作
機械取扱い

- ・大型自動車部品ラインの受注

■ 装置製造から生まれた

ALFA FRAME® SYSTEM

■ アルミの特性を活かした機械装置の開発製造

■ 当社製品(ALFA FRAME® SYSTEM)を組み合

わせた洗浄・検査・搬送梱包の各種装置の販売

■ 「メーカー機能」を活用した設備導入提案

1927

1971

1986

事業環境

- ◆ 国内外における自動車関連事業の高水準な設備投資
- ◆ FPD業界の技術革新と旺盛な設備投資などエレクトロニクス業界の活況
- ◆ 先端技術の微細化に伴うクリーン関連製品への注目度増大
- ◆ 鉄からアルミへの代替促進などアルミフレーム市場の拡大
- ◆ 人材不足による生産設備の自動化、省力化の更なる進行
- ◆ 企業活動の変革とスピートアップ

当社の競争力



アルファ フレーム 部門

- アルミ構造部材の国内でのパイオニア的存在
- 設計ノウハウを活かした設計支援などの質の高いサービスの提供
- 新製品開発力
- システムとして完成された豊富なフレーム、アクセサリ類製品

装置 部門

- 幅広い業界で利用される要素技術の蓄積
- 特定の業界や取引先に過度に依存しない取引構造
- 当社技術力を評価するリーディングカンパニーを固定客に持つ

- 
- 各部門が相互にシナジー効果を活かしつつ、専門的なソリューションを提供する企業
 - 常に新しい独自の技術の開発を促す技術ベンチャーの気風

開発の基本方針



開発

技術開発センターを設立し開発力をさらに強化

3部門のシナジーを活かし、早期商品化を目指した製品開発

- 標準化・汎用化
- アルファフレーム製品、アクセサリ類の改良／開発
- 装置関連技術の開発



標準カップ式洗浄機

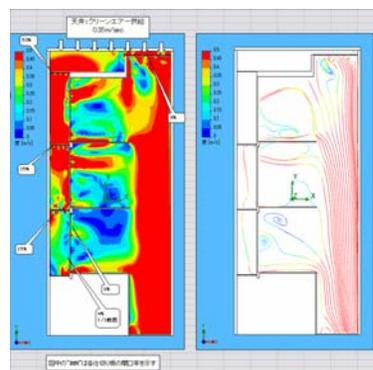
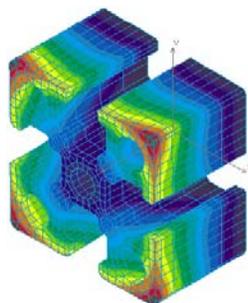


標準クリーンブース

安定的・持続的な収益力を高める研究開発

- 新素材等の基礎研究

マグネシウム合金
樹脂フレーム 等



クリーンストッカーの
気流解析



生産・技術

- 生産能力の増強 → 協力工場の確保
- 他社との提携による技術分野の拡大
- 標準化・汎用化製品ラインアップの充実
- 3部門のシナジー効果を活かした製品開発
- 人材の確保 → 技術力、技術者の確保

営業

- 質の高いサービスの提供(短納期、設計支援、ソリューションの提供)
- 販売チャネルの多様化
- 価格競争力の強化
- 専用フレーム開発 → 大口ユーザーの定着

IV. 会社概況

会社の概要



- 会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
- 設立年月日 昭和46年5月17日
- 代表社名 代表取締役社長 西川 浩司
- 本社所在地 富山県富山市清水元町7番8号
- 東京本社 東京都江東区有明三丁目1番25号
有明フロンティアビルB棟 11階
- 資本金 156,100千円(平成19年9月末日現在)
- 従業員数 153名うち正社員135名(平成19年9月末日現在)
- 事業内容
 - ① アルミ構造材「ALFA FRAME® SYSTEM」の製造販売
 - ② アルファフレームシステムを使用したFA装置、
クリーンブース、構造物の製造販売
 - ③ 富山県を地盤とした地域密着型工業生産財商社



沿革

・本年は創業80年の長い歴史を有する(時代と共に変革)



1920

1960

1970

1980

1990

2000

技術開発センター開設 **2007年6月** ●

JASDAQへ新規上場 **2006年6月** ●

ISO9001 (**2004年8月**) 及びISO14001の各認証を取得 **2006年3月** ●

当社を存続会社として(株)クレトを吸収合併 **2002年4月** ●

ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を解散し、同社のクリーン **2001年3月** ●
関連事業を移管し、クリーンブースの製造・販売を開始

セイコー電子工業(株)、マイスナー・ヴウルスト社と共に **1997年12月** ●

ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を設立し、クリーン関連事業を開始

東京都千代田区平河町に東京支店(現・東京本社)を開設 **1993年2月** ●

● **1988年5月** アルミ構造材「ALFA FRAME® SYSTEM」を商品化し、
アルファフレームの製造及び販売を開始

● **1986年4月** 産業用アルミフレーム「アルファフレーム」を開発

● **1971年5月** 富山県富山市にキュノ・トヤマセールスを設立し、搬送装置及び
周辺装置の設計・製造を開始

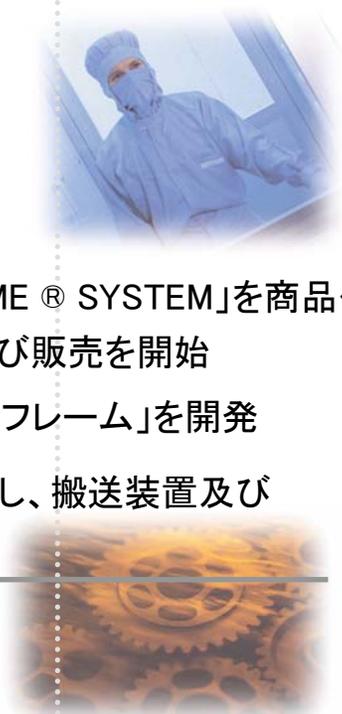
<設立後>

<設立前>

● **1970年10月** クレト商会を(株)クレトに商号変更

● **1960年3月** 西川鑪製作所をクレト商会に商号変更

● **1927年4月** 鑪(やすり)の製造及び加工を事業目的として、富山県富山市に西川鑪製作所を設立



3つの事業部門



機械要素部品の生産から高度な装置製造・販売までの一貫体制

1. アルファフレーム部門



ボルトだけで構造体を組立てることができるフレキシブルなアルミ構造材
「ALFA FRAME® SYSTEM」の製造販売

2. 装置部門

アルファフレームシステムを使用したFA装置、クリーンブース、構造物の製造販売



3. 商事部門

富山県を地盤とした
地域密着型工業生産財商社



アルファフレーム部門(1)



■ 強度解析とアルミ押出し技術が生み出す品質

■ 総合システムとしての高い完成度 (ALFA FRAME® SYSTEM)

【アルファフレームの特徴】

1. 環境にやさしいリサイクル性
2. 軽く強く美しいフレーム
3. 急な設計変更や増設に対応
4. 豊富な製品ラインナップ
5. 幅広い分野に対応

知的財産権：(平成19年9月30日現在)

- 特許権 33件
- 商標権 34件
- 意匠権 64件

230種類を超えるアルミフレーム製品

【スチール製構造部材との比較】 ※当社調べ

- スチール製構造部材(6つの加工工程) …… 設計+切断+溶接+機械加工+塗装+組立
- ALFA FRAME® SYSTEM(3つの加工工程) … 設計+切断+組立

アルファフレーム部門(2)



■ 専門CAD設計陣による 設計支援サービスで広範な用途を提供

エレクトロニクス

DVD・携帯電話
PDP・TFT液晶ディスプレイ



自動車

PL対応のマシンツール用
パーテーション

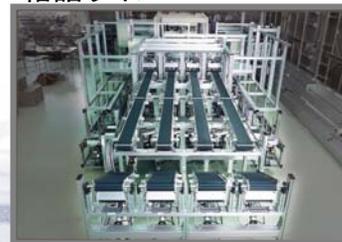


半導体

超微細化半導体用
クリーンブース



製薬・食品 箱詰ライン



公共施設・病院 メディカルワゴン



専用フレーム

公園などに設置する街灯のボディー
直交ロボットのマインフレーム
エアシリンダーのボディー
コンベアフレーム、コンプレッサー部品

- 洗浄装置(FA装置) 部品製造工程において、切削切粉等の削りかすを除去

■ 当社独自の洗浄方式

ボックス式洗浄機



標準カップ式洗浄機



NEW

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

自動車分野をはじめ電子、電子部品、家電メーカーなど幅広い業種に納入

装置部門(2)



● 検査装置(FA装置)

部品製造工程において、寸法、重量、形状、機能等を検査



● 搬送・梱包装置(FA装置)

部品製造工程において、材料の供給、機械間搬送、完成品をストック



● アルミ構造物

機械のカバー、機械の付属設備等



装置部門(3)



- **クリーンブース** 電子、精密部品の製造工程等で、局所をクリーン化

カスタムクリーンブース



標準クリーンブース

- ・ホームページから簡単見積もり
- ・各種レイアウトあわせた350種以上のバリエーション

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

電子部品、家電メーカー、精密機械分野など幅広い業種に納入

● 工場等の機械設備

- 切削加工等の工作機械、自動化・省力化に必要な搬送の機械装置等
- 自動車部品メーカーへの売上比率が高い



● 消耗品



工業用砥石



工具・ツール



油脂類

富山県内の地域密着型商社として、リピート受注が多く、安定した消耗品ビジネス

- 本資料は、当社に関する情報の提供を目的とし、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

- 本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

- 本資料に対するお問合せは、以下のIR担当窓口にてお願い申し上げます。
＜エヌアイシ・オートテック株式会社 経営企画室＞
TEL: 03-5530-8066 FAX: 03-3570-2381
Mail: ir@nic-inc.co.jp URL: <http://www.nic-inc.co.jp/>